

ワークショップ 4 「微生物叢から見た消化管病態の新知見」

Advances in microbiome research in gastrointestinal diseases

司会 安藤 朗（滋賀医科大学医学部消化器内科）

内藤裕二（京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学）

ヒトの消化管には約 1,000 種、100 兆個の細菌が存在し、腸内細菌の持つ総遺伝子数はヒトの持つ遺伝子の 100 倍以上にのぼる。腸内細菌はさまざまな機能を介してヒトの健康維持に関与しているが、腸内細菌に対する免疫監視機構の破綻は IBD の発症につながる。さらに、大腸癌、肝疾患、肥満、糖尿病、動脈硬化、自閉症などの病態においても腸内細菌叢の変化が重要な役割をはたしている。最近の研究では、細菌のみならず腸内に潜むウイルスや真菌の重要性も指摘されている。このワークショップでは、IBD や IBS にかぎらず消化管全般における斬新な微生物研究について発表いただき、その意義について討論したい。